

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書

中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)の予後に関する研究

研究分担者 磯 博康 国立研究開発法人国立国際医療研究センター
国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター センター長

研究要旨

中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)は2008年に我が国で見いだされた新規疾患概念である。本症の診断数は2022年12月の時点で累積640例を超えるに過ぎず、その予後については不明な点が多い。本研究班での調査の結果、2022年12月現在、全国68の施設においてTGCVが診断されており、累積診断数は640例、内93例は既に死亡していた。診断時の患者の平均年齢は64歳であった。特に、糖尿病合併例、血液透析例、心不全例では心血管イベントの発症が高頻度に認められた。今後、より詳細な予後に関するデータの収集と評価が必要であるが、TGCVは成人発症の予後不良な心血管病といえる。

A. 研究目的

中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)の予後を明らかにする。

B. 研究方法

研究班で定めたTGCV診断基準2020によって確定診断(definite)となる症例の年齢・生死について調査を行った。

(倫理面への配慮)

論文・学会報告をもとに検討したことから倫理面の問題は存在しない。

C. 研究結果

全国68施設から回答があり、累積診断数は640例、内93例が既に死亡していた。これまでのTGCV患者の診断時の平均年齢は64歳で、心症状の出現は平均51歳で、糖尿病と慢性腎臓病の合併が高頻度であった。

透析を必要とするTGCV患者では、1年間の複合心血管イベント(死亡、心筋梗塞、脳卒中、標的血管再血行再建、心不全入院)の発症割合は60%に及んだ。糖尿病合併TGCV患者では、第2世代薬剤溶出性ステントを用いた経皮的冠動脈インターベンションにおけるステント内再狭窄が非TGCV患者に比べて高率であった(オッズ比5.31; 95%信頼区間1.32-21.4; P=0.02)。心不全例では、心筋脂肪酸シンチグラフィBMIPPの洗い出し率が4.5%以下の症例で予後が不良であった。

D. 考察

TGCVは希少疾患であり、今後とも症例登録を継続し、長期予後の調査が必要である。

E. 結論

TGCV は成人発症の重篤な心血管病であり、
今後とも継続的な予後調査が必要である。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし